

会議議事録（要旨）

1 会議名	平成 30 年度 第 2 回阿賀町地域公共交通活性化協議会
2 開催日時	平成 31 年 3 月 25 日(月曜日) 午後 3 時 30 分から
3 開催場所	阿賀町公民館 講堂
4 出席者名	<p>鳩山副会長、関本委員（代理）、齋藤委員、古田委員、長谷川正美委員、伊藤委員、広瀬委員、長谷川勇委員、星委員、宮澤委員（代理）、野村委員（代理）、関委員、清田委員（代理）、宮村委員、佐々木委員（代理）、坂井委員、五十嵐委員、阿部委員（代理）、伊藤委員（代理）、平出委員（代理）、松永委員（代理）、関谷委員</p> <p>【欠席】高橋委員、阿部委員、神田委員、野潟委員、坂上委員</p> <p>【オブザーバー】神田町長</p>
5 議題	<p>【報告事項】</p> <p>(1) 阿賀町バス利用状況・アンケート調査結果について</p> <p>(2) スクールバス混乗化実証実験利用状況・アンケート調査結果について</p> <p>(3) 路線バス「新発田営業所～新谷線」検討状況について</p> <p>【協議事項】</p> <p>議題 1 阿賀町地域公共交通活性化協議会規約等の一部改定について</p> <p>議題 2 平成 31 年度事業計画（案）について</p> <p>議題 3 平成 31 年度予算（案）について</p>
6 協議結果の概要	・議題 1～3 について承認された。
7 審議の内容	<p>【町長挨拶】</p> <p>・本日は月末、年度末のご多用の所皆様からご出席いただき誠にありがとうございます。</p> <p>この公共交通活性化協議会、私も職員でございましたので、昨年まで職員として座っておりました。また、今の交通体系は平成 18 年に私が当時担当して作ったものほぼそのまま 12 年引き継いできております。</p> <p>そうしたなかで町の高齢化、人口減少、一方でこの移動手段の確保がますます大きな課題となってきたりしているわけがございます。また、こうした人口減のなかで、町の活性化には観光客の誘客、いわゆるインバウンドを含めながら、そうすると二次交通というふうな課題も出てくるわけがございます。</p> <p>交通もそうですけれども、「誰のために、何のために」といった視点をしっかり持ちながら具体的に進んでいくというようなところへご提起していく必要があると感じているところでございます。</p> <p>私が担当した 12 年前、福祉バス、これも町内で均一的に運行を開始したわけでございますけれども、当時と状況はかなり変わってきている部分があります。家から幹線の道路へ出るまで大変な状況があるわけですね。そのなかで通院しなけ</p>

【町長挨拶】

ればならない、買い物へ行かなければならない、その足の確保というものは必要性が高まっているところでございます。バス事業者やJR、タクシーも非常に大切な公共交通なわけでございますけれども、利用者が少なくなっている、運転手の確保が難しくなっているなど、様々な課題が出てきているわけでございます。ひとつひとつできるところから早く具体的なものを作っていくということが、非常に大事な部分であると感じているところでございます。

この4月から機構改革を行い、現在は総務課でこの業務を担当しておりますが、新しく観光と一緒に「まちづくり観光課」という組織をおこします。ここで交通について担当をするということにさせていただきますので、事務局の変更もあるわけですが、町民の生活だけではなく、この町においでいただく皆さんのことも考えた交通の体制も必要になってくるわけでございますから、そうしたところを総合的に進めていく新たな課を設立していることから、より皆さんのご意見をいただくなかで効果的なものを作っていくと考えております。

本日は事務局の報告的なものが主となるかもしれませんが、是非皆さんから忌憚のないご意見をいただくなかで、新たな公共交通体系を構築していきたいと思っておりますので何卒よろしくご意見申し上げましてご挨拶とさせていただきます。

【副会長挨拶】

本日は会長不在ということで、規約に基づき会務を総括させていただきます。よろしくお願いいたします。今年度は第2回目の協議会ということで、皆様お忙しいなかご参集いただきましてありがとうございます。

公共交通活性化協議会ということで、こういう場で議論することはほとんどバスのことなんですけれども、色んなところを見ても、バスだけがソリューションではないということは何度か申し上げてまいりました通りでございます。地域でどういう交通を実現させたいのか、それは地域公共交通網形成計画を去年策定しましたが、そこに書いてありますけれども、それを実現するためにはどういうことをやっていったらいいのかというのは、我々大学もそうですけれども皆さん、特に住民の方々からのアイデアがとても大事になってくるわけです。そういった時に、いかに住民の方々のご意見を交わすことができるのかということが重要となってきますが、その議論の場が公共交通活性化協議会となるわけでありますので、是非この阿賀町の交通をより良くしていくための皆さんのアイデアをお聞かせいただきたいと思っております。バスが主体ではありませんが、いろんな方法があるということをお忘れなくいただきたいと思っております。一方で、現在担っていただいております新潟交通観光バスと密接に公共交通体系を組んでいると思いますが、この様な交通事業者と密接に地域として繋がっておくということも非常に重要で、先日呉というところで公共交通に関するシンポジウムが開催されましたが、呉はご承知のとおり、去年の夏に大雨で被害を受けた地域です。そこで、地域の交通手段が分断されて、住民の方々も被災されて移動がしにくくなりましたが、公共交通と町と県が密接に関係を築いていたおか

<p>【副会長挨拶】</p>	<p>げで、被災地への公共交通手段の確保がすぐにできたというようなことがございました。公共交通は暗いことばかり考えるから、バスは面倒くさいし乗らないしと考えがちですが、そうではない、皆さんもっとバスを使わないといけないし、バスを残していかないと、いざという時にバスという交通手段は非常に役に立つんだということを、身をもって感じてきた次第でございます。そういった議論もございますので、公共交通もいろんな形で何としてでも維持していくことが地域の持続可能性においては非常に重要だと思っておりますので、是非皆様と意見を交わしながら進めてまいりたいと思っております。本日はよろしくお願いたします。</p>
<p>【報告事項1】</p> <p>鳩山副会長</p> <p>事務局</p> <p>鳩山副会長</p>	<p>(1) 阿賀町バス利用状況・アンケート調査結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき報告事項(1)について説明。 ・「新潟万代病院」まで延伸したが、あまり利用が伸びなかったという結果だったが、一方で買い物目的の方が増えていることとどう整合するのか。 ・「新潟市役所」を利用される方も少し伸びているので、BRTに乗り換えて古町へ行かれる方なども増えたのではないかと考えている。 ・増えたといっても30人から40人程度なので、通院利用の方が行動を自主的に広げたのではないかと推測する。延伸したにもかかわらず利用されていないのはもったいない。目的がなければ交通手段を作っても人は利用しないので、万代病院まで行けるという情報提供するときに、こんなところにも行けるといった情報の出し方をした方がユーザーが想定しやすくなるという効果がある。丁寧な情報提供が必要。また、前年度と比較をするなら乗車人数以外の前年度データも載せていただきたい。
<p>【報告事項2】</p> <p>鳩山副会長</p> <p>事務局</p>	<p>(2) スクールバス混乗化実証実験利用状況・アンケート調査結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき報告事項(2)について説明。 ・路線バスが運行していた時と利用者がどのように変化したのか分からなかったが、事務局から報告できるか。 ・定時定路線の路線バスと予約制の運行ということで、比較の方法で迷ったが、予約制のバスが稼働しているときと、路線バスを比較すると、朝の便で0.73人の減、昼の便で1.22人の減となっている。

<p>鳩山副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用頻度が減った方がいたが、理由が登録制や予約制、生徒との同乗に対する抵抗感と事務局は分析しているが、この様に結論付けるのは早いと思う。今回のアンケートでは直接利用頻度が減った理由は聞かなかったようだが、次回は減った理由を直接聞いた方が良い。 ・区長が動いていただいた地域は利用が増えているということだったが、自治会に動いていただくとかなり効果があるようだ。 ・長期休暇時など、予約の際に確認しなければ運行状況が分からない状況は、利便性の面で課題があると感じた。 ・効率化の結果、利用者が減ってはいけないと思う。不便になると受け取れないために、時刻表を提示するだけではなく目的と併せて住民の方に周知する必要がある。また、自治会長の協力を得て周知すれば更に効果があるのではないかと思う。
<p>松永委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉バスの運行と混乗路線の運行経路や運行時刻の違いや用途の違いなど伺いたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉バスは温泉を経由するなど混乗路線と運行経路が異なる。また、福祉バスはスクールバスの通学時間帯の運行が終わってから同車両を用いて運行するため、運行時間帯が異なる。また、福祉バスは1日につき1往復で、週2～3回の運行となっている。(混乗路線は平日毎日運行)
<p>鳩山副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・町のなかにどんな交通がどう運行しているか、町外の方にも分かるように全体的な情報が資料としてあると良い。
<p>【報告事項3】</p>	<p>(3)路線バス「新発田営業所～新谷線」検討状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき報告事項(3)について説明。
<p>古田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・阿賀町の公共交通を活性化する協議会の委員として出席させていただいているが、運転手不足に非常に苦慮しており、特に阿賀町管内の津川営業所については、昨年度と比べ6名退職している。正社員の運転手だけではなく、正社員を終え、臨時運転手として採用している運転手もいるが、高齢や体調面といった理由や定年退職、依願退職もあり、本来であれば会議が始まった当初、土日の路線バスを運休という形で戦力を特化して、これから町が考える計画に則ってその戦力をいかに使えるかという形で考えていたが、想定していたよりも退職者が多く、新谷線を来年度から運行するには1人足りない状況ではあるが、営業所長と連携を図ってなんとか秋までは継続したいと思っている。現状では来年度いっぱいはおもてるかどうか、精一杯かなという状況にある。これは阿賀町に限らず他市町村についても同様で、路線の再編、減便という形でお願いして

古田委員	<p>いる状況である。退職者が年間平均20から30名出るなかで、再雇用できるのが6名から10名で、運転手不足問題に直面している状況である。活性化協議会という前向きな検討を行う場で大変申し訳ないが、当社の実情も勘案いただきながら、鳩山先生からも冒頭お話があったとおり、バスだけが交通手段ではないということは私共も認識しており、他市町村でもあるように貸切バス会社やタクシー会社、福祉バスの活用ということも想定されることから協議会のなかで協議をさせていただきながら路線バス以外の公共交通があればというところも併せてお願いできればと思っている。</p>
鳩山副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・運転手不足問題は全国的な課題で、阿賀町も例外ではない。物理的に難しいものを続けていくのは難しいところがあるので、地域としての解決方法を考えていかなければならない時期なのではないかと思う。国土交通省では運転手不足を解決する方法としてどのような施策があるかお話しいただけないか。
関谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ・路線を維持したいが運転手が見つからないというところでどの市町村も大変苦勞されている。国土交通省として、運転手の資格を取るための補助制度等は今のところない。数年前から運転者確保対策協議会としてバス事業者と話し合いの場を設け、情報共有をしながら手探りしているところだが、解決のための特効薬はない状況。各運輸支局長が直接高校をまわり、運転手として地域の役に立つことができるということで是非地域活性化のために地元で働いてもらうようトップセールスを行っているが、どの程度効果が出ているかは見えない状況である。 ・路線バスを運転するには大型2種免許が必要となるが、10人乗りのジャンボタクシーであれば普通2種免許で運行が可能。大型2種免許の所有者は少ないが、普通2種免許であればタクシー運転手の資格があればジャンボタクシーを運転できる。利用者の少ない路線については地域公共交通会議で合意を得ることによって定時定路線だが普通免許によるジャンボタクシーを活用できるので、そういったことも今後検討していただきたい。
鳩山副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・阿賀町のタクシーの運行はどのような状況か。
伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシー会社は2社あるが、車両は平均で毎日1台から2台動いているような状況。以前は9台程度稼働していたが、徐々に減っていき、車両は3～4台あるが、夜は更に利用が減り、1台以下の稼働。昼は2台程度の稼働状況となっている。
鳩山副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシーも人手が足りない状況。最終的には自家用有償運送も考えていかなければならない状況にあるかもしれない。

鳩山副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・報告事項3は新発田市と阿賀町を結ぶ路線をどうするかという話だったが、運転手不足はこの路線に限らない問題なので、引き続き考えていかなければならない問題である。地域でどのようなことができるのか考えていく必要がある。
【議題1】	<p>阿賀町地域公共交通活性化協議会規約等の一部改定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき議題1について説明。
鳩山副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・議題1についてご意見、ご質問があれば発言願いたい。 (意見、質問等はなかった。) ・議題1を承認しても良いか。 (承認された。)
【議題2】	<p>平成31年度事業計画(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき議題2について説明。
鳩山副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・議題1についてご意見、ご質問があれば発言願いたい。 (意見、質問等はなかった。) ・スクールバス混乗は今年度は上川地域で実施していたが、来年度はしないのか。将来的にはどのように考えているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・当初は路線バスが運行していない地域にスクールバス混乗路線を導入しようと考えていたが、上川地域の路線については元々路線バスが走っていない地域で、利用の見込める地域ではなかったということが今回の実証実験で分かったところなので、今後の方針としては、原則として路線バスが走っている地域を整理、統合化を図りながら導入を検討した方が良いのではないかと考えている。
鳩山副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで路線バスを交通手段として選択肢に入らなかった地域の人にバスが通りますよと言っても利用しない。PRの仕方が非常に重要だと思う。上川地域においても将来的には導入するという前提で今後検討していただきたい。今回の実証実験の続きにおいても利用する人の身になって情報提供していただきたい。 気になる部分は、「スクールバス混乗化」と言っているが、スクールバスに一般の人が「乗せていただいている」という感覚になっている。PTAを尊重する気持ちは分からなくもないが、混乗なので、一緒に使っているというイメージが大切。スクールバスと予約制のバスが一緒になるという空気感を出せたら

鳩山副会長	<p>いいと思う。なかなか難しいと思うが。</p>
神田町長	<ul style="list-style-type: none"> ・鳩山先生と同じ考えである。上川の小出地域については平成18年からどうぞ地域の皆さん乗ってくださいというスタンスで運行していた。そこでスタートしている。公共交通がない地域なので、新たにスクールバスという公共交通を導入したので、子ども以外の地域の方にも自由に利用していただく様始めていた。 もうひとつは利用登録について。地域の方が乗るので、どんな人が乗るか分からないということで親御さんの心配もあって事前登録になったというのが、利用する方にとってはかなり抵抗感があるのではないかと思うので、この辺の意見を伺いたいと考えている。スクールバスの混乗は30年前から先進地はみんなやっていた。この辺も昔から行っていたが、路線バスを使いながら学校へ通っていた。先生がおっしゃっていたことが本来は基本であるが、スクールバスのための運行に一般の方が乗っているといった整合性を少し具体的に意見を聴きながら考えていった方が良いと考える。
関委員	<ul style="list-style-type: none"> ・各温泉施設は大抵バスを所有しているが、老朽化しているバスも走っており、温泉施設にとってバスを所有しているということが非常に負担になっていると感じている。運営が厳しいなかで、公共交通とうまく掛け合わせたなかで、バスの効率的な運用方法は考えられないか。
鳩山副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にはそれぞれの施設が所有しているバス、車両がたくさんあると思うが、それらを総動員すればいろんなことができるかもしれないが、不便な車両や壊れた車両もあるかもしれない。そういったところを改善するための補助を自治体にするなどの方策が考えられるが事務局としてはどのような見解か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉施設にバスが1台ずつあるような状況も把握しているが、無料で送迎する場合、例えば駅から温泉施設までの最短距離を結ぶものであれば送迎バスとして認めますという道路運送法上の規定があったかと思うが、温泉組合などで車両を共同利用して各温泉施設を巡るといったことであれば活用の可能性はあると思うが、温泉組合は三川地域しかなく、担い手がない状況なので、実行できる方がいないのではないかというのが事務局の見解である。
鳩山副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手を調べてみる価値はあると思う。実際に運行するとなると障壁が出てくると思うが、運輸局の方も委員におられるので、アドバイスを受けると良いと思う。 ・事業計画については今出てきたご意見を踏まえながら、中身については改めて考えていただいて実行していただくということで、議題2についてご承認い

鳩山副会長	<p>ただいでよろしいか。</p> <p>(承認された。)</p>
【議題3】	<p>平成31年度予算(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料に基づき議題3について説明。
鳩山副会長	<ul style="list-style-type: none"> 議題3についてご意見、ご質問があれば発言願いたい。(意見、質問等はなかった。) 議題3を承認しても良いか。 <p>(承認された。)</p>
【その他】	
関谷委員	<p>他市町村の公共交通施策について</p> <ul style="list-style-type: none"> 町のなかにコミュニティセンターを設けて、お年寄りが囲碁と将棋を差している。全国的に少子高齢化ということで、お年寄りの方が増えている。買い物や通院も大切だが、それ以外何もしないで家にこもっていると精神的にも参ってしまい、不健康になりがちになってしまう。お年寄りに外に出てもらうためには移動のための公共交通も大切だが、中心地に行けば何か面白いことをやっていて、そこなら行ってみようかなというような施設があれば外出する動機づけになるのではないかと思う。そういった施設のPRをすることも公共交通活性化にとって大切だと感じる。
事務局	<p>来年度協議会開催時期について</p> <ul style="list-style-type: none"> 来年度の協議会は6月頃に開催を予定しており、平成30年度の事業報告及び決算報告などについてご審議いただくことを予定している。 <p>また、本日の議事録を作成し、委員に送付するとともに、町ホームページ上に資料と併せて公表することするのでご了承いただきたい。</p>